

1 事業の総括

1) 事業計画で触れた「支援の着地点を探る」について

医療分野のゴールの一つ、ムスリム医療チーム PIHS と協働した「母子のいのちを守る助産所開設事業」について、自主財源創出まで見届ける予定だったが、諸事情で年度内の成果確認には至っていない。また、当団体が引き継ぐ以前から数えると、35年を超えるレイクセブ町やブラクールのチボリやマノボ民族教育支援に関しては、現地に対して非公式に、3年後の支援終了の可能性を示唆したところ、ブラクール校を運営する住民組合からは、日本の支援に代わる資金源を地元行政に求めたいという前向きな対応を聞くことができた。

2) 環境保全や持続可能な収入増加を目指すアグロフォレストリーについて

実施中の事業のみならず、過去の事業のモニター、成果確認を事業計画に入れたが、5月のマラウイ紛争、戒厳令施行で、当団体としては年度内一度もモニター渡航ができないという設立以来初めての事態が起きて実現に至っていない。

3) 持続可能な事務局運営、世代交代準備について

事務局の世代交代には、当面、事業管理業務の単純化が必要と考えて、助成金事業の新規申請はイオン環境財団助成事業1件に限定した。また、年度終盤には、現地パートナーPIHS 代表のご親族で、在日フィリピン人女性の組織化や支援実績が豊かな長瀬アガさんから、次年度から、当団体の課題である若い世代の参加や事務局の世代交代のため協力したい、スタディーツアーや勉強会の実施の手伝いをしたいという申し出を受けた。次年度の活動計画で具体化させたい。

2 各事業分野における活動報告

1) 保健・医療

① CMIP と協働の事業

奨学生（約60名）や給食支援対象4小学校の児童が病気やけがで学業を中断することがないように、風邪や胃腸薬、応急手当用医薬品代1万ペソ（約2.2万円）支援した。重篤なケースには適宜対応するとしたが、幸いその要請はなかった。

② PIHS と協働の事業

（助産所開設事業）

助産所建設は保険適用医療機関としての基準を満たすため、予算を大幅に上回る建設費が掛かり工期も伸びた。12月10日の竣工後、地域の医療センターとして患者受け入れ他、予防接種や割礼等行政からの委託医療活動を行っているが、自宅出産のリスクを減らし、保険適用助産所として収益を生むという目的達成はできていない。3月末推定事業費は290万円（予算は200万円、うち今井基金99.9万円）

（その他の活動）自己資金を充当しての各ヘルス組合における研修や自主財源事業も継続実施された。

2) 教育・人材育成

① 初等教育支援

- * ビラーン等貧困家庭の児童25名に、各年額約2,700円の奨学金支援(CMIP と協働)
- * CMIP 運営の小学校（4校）児童約500人週3回の給食費補助24.5万円支援（CMIP と協働）
- * 住民組合運営ブラクール小(約80名) 教師3名中2名分の給与と給食費支援、計29万円（PFP と協働）
- * SCMSI 校運営支援（3小学校教師給与80%相当）、里子12名授業料支援計214万円（SCMSI と協働）

② 中等教育支援：

- * ハイスクール生25名に各年額12千円の奨学金支援。（CMIP と協働）
- * SCMSI ハイスクール里子40名の授業料他年額推定5千円支援。（SCMSI と協働）



③ 高等教育支援：

- * GFI カレッジ他 8 名に各年額 6.1 万円の奨学金支給。年度末卒業は 2 名。ダバオ医科大学 1 年ジェニ一奨学金 73 万円（平賀奨学金）4 年アン奨学金（宮崎奨学金・6 月卒予定）73 万円（CMIP と協働）
- * SCMSI カレッジ 里子 10 名の授業料支援及び、SCMSI 校出身外部カレッジ生 9 名に年額約 4.8 万円の奨学金支援（以上、SCMSI と協働）。2017 年度末卒業は SCMSI カレッジ卒 5 名。外部大学 2 名。
- * あしなが奨学金（ブラカール出身サルニ補助金年 4.2 万円、アムグオ出身ロサリン年 5.3 万円）（PFP 経由）

④ 看護師育成 JOFPA 基金奨学生：

PIHS 推薦ムスリム学生モナリサと、SCMSI 推薦ゴルディ・マリの計 2 名に、各月額約 1 万円を支給。ゴルディは 6 月に 4 年次に進級予定。単位不足で 6 月の 3 年次進級は無理と判明したモナリサは、その家庭環境や学力、さらに、ムスリムの村のニーズも考慮し、助産師コースへの変更を承認。助産所を手伝いながら、学業を継続することになった。

3) 農村開発及び環境保全の活動

山岳部先住民族の農村開発事業は、熱帯林修復が前提となるため、環境保全事業との区分が難しいが、WE21 ジャパンみどりの助成を受けて実施した 2016 年度に続き、緑の募金交付金を受けて 2017 年度も実施（2018 年 6 月終了予定）のボルールでの事業は、教育を受けたビラーンの青年、特に農業専攻のポニフアシオが、住民組織育成と持続可能な収入向上事業を担うという内容で、引き続き、農村開発事業に含めた。

一方で、環境保全事業としてはレイクセブ町バラングイ・タシマンのレムズアルで、前年の 10 月から実施されていた三井物産環境基金助成 3 年継続最終年の事業が 2017 年 9 月に終了した。この 3 年継続事業では、2 年目のタケヨンで果樹苗の代わりに水牛を共同購入したいという要望が出て、PFP が対応に当たっていたが、実際には地域の先住民族学校長アニータさんの指導で果樹苗購入に決まった。ただし、その報告が遅れた他領収書不備の問題が生じた。前年のイオン財団事業と合わせて、戒厳令及び治安不安で現地モニターができず、両事業で承認された渡航予算が消化できなかつたため、2017 年度内に両財団に対して計約 30 万円の返還金支払いが生じた。

<支援実績>

- ① レイクセブ町タシマン村レムズアルでの保護区 10ha の在来種 2500 本の植林、生産区 20 世帯計 20ha にゴム、コーヒー、バナナ及び果樹苗合計 6300 本の植栽、理念技術研修からなる「タシマン村の環境修復と持続可能な収入向上事業」3 年目事業が 9 月末に終了した。（三井物産環境基金助成・PFP と協働）
- ② コロナダル市バラングイ・アサンプション（ビラーン名ボルール）で、急傾斜地に在来種 4500 本、竹 800 本、生産区 30 世帯計 30ha にココヤシ、コーヒー、バナナ及び果樹苗合計 6600 本の植栽、理念技術研修からなる事業を実施。3 月には苗木の第 1 回手入れが実施された。事業の完了は 2018 年 6 月末の予定。（緑の募金交付金・PFP と協働）

4) 女性自立支援の活動

- ① COWHED 支援：国内市場の開拓が進み、レイクセブ町の観光課や貿易産業省からはチボリ民族の伝統継承の拠点という評価や支援を受けていて、自立度 100%に近いと評価したが、前年に引き続きカレッジ 4 年になる奨学生 1 名の支援と、年 4 回の当団体宛の現況報告担当者への手当として、合計 2 万ペソ（4.5 万円）を支援した。但し報告等はまだ届いていない。なお COWHED 製品の注文は靴型キーホルダー他、日本の市民に人気があるティナラク製小物を中心に、約 6 万円分仕入れた。
- ② ビラーンの伝統織ナバルタビ支援：従来団体自己資金で織りの研修を支援してきたアムグオ地区のナバルタビ保存及び収入向上事業は、2017 年度初めて助成金を受けて、10 年前に支援した「織の家」修復を

平成29年度活動計算書

(平成29年4月1日～30年3月31日)

特定非営利活動法人ピラーンの医療と自立を支える会

I 経常収益の部

単位:円

	科目	予算額	決算額	差異	摘要
経常収益	受取会費(社員会費)	300,000	295,000	5,000	年6,000円×49口 他
	寄附・医療自立支援	650,000	634,000	16,000	年12,000円×52口 他
	寄附・教育支援	5,400,000	6,761,688	▲1,361,688	ホリ支援、ピラーン奨学金、教育全体他(医大生ジェー奨学金前受け分含む)
	寄附・一般	2,000,000	1,770,115	229,885	マラウイ8.7万、助産所93万、クリスマス10万、他一般寄付、不用品換金分寄付他
	(受取寄附合計)	8,050,000	9,165,803	▲1,115,803	
	受取助成金	2,190,000	1,450,305	739,695	今井基金99.9万、WE21みどり19万、緑の募金56万、イオン前年分返金11万、三井3年分返金18万
	事業収益	200,000	108,944	91,056	ハンディクラフト事業収益
	雑収入	1,000	6	994	
	経常収益計	10,741,000	11,020,058	▲279,058	

II 経常費用の部

	科目	予算額	決算額	差異	摘要	
事業費	医療・衛生事業費	2,250,000	2,969,227	▲719,227	PIHS:270万円(助産所事業うち助成金99.9万円) CMIP:2.5万円(奨学生医療支援) CMIP経由医大生2名153万、SCMSI 定期支援及びカレッジ奨学金284万	
	人材育成事業費	5,300,000	6,379,582	▲1,079,582	CMIP(カレッジ・ハイスクール・小奨学金。給食) 144万、PFP(フアール・あしなが・給食)40万 PIHS 9万(JOFPA奨学生モナリサ) 他 各パートナー経由クリスマス寄付他	
	農村開発事業費	1,100,000	1,069,761	30,239	ピラーンの村ホルルの収入向上・環境保全森林農業(H30年6月末終了予定)	
	環境保全事業費	500,000	447,833	52,167	3年継続タシマン村アグロフォレストリー3年目(9月末終了)	
	女性自立事業費	330,000	321,245	8,755	アムゴ地区ナハルビ振興事業、COWHED支援(担当手当、カレッジ奨学金約4.5万円)	
	広報啓発事業費	80,000	91,880	▲11,880	(あーすフェスタ、横浜フェスタ、市民活動フェア)参加費、ホームページ謝礼(月額5000円)	
	予備事業費	100,000	89,130	10,870	マラウイ避難民支援(JPN経由5.5万円、PIHS経由34,130円)	
	事業費計	9,660,000	11,368,658	▲1,708,658		
	管理費	人件費	720,000	532,068	187,932	専従スタッフ、非専従スタッフ各1名給与
		通信費	200,000	174,626	25,374	NTT料金、会報発送切手代他
旅費・交通費		60,000	68,944	▲8,944	事務局長(月額5,000円)、非専従スタッフ交通費他	
印刷・出版費		70,000	67,471	2,529	会報89-92号各6ページ300部印刷代	
会費・会議費		45,000	48,786	▲3,786	NGOネット会費(JPN:1万、YNN:5千、JANIC:3万)その他	
手数料		10,000	10,142	▲142	海外送金手数料ほか	
消耗品費		25,000	36,517	▲11,517	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙、団体名住所スタンプ作成(更新)他	
事務局賃借料		120,000	120,000	0	事務局賃借料	
保険料		15,000	2,394	12,606	事務局スタッフ2名労災保険料	
管理費計	1,265,000	1,060,948	204,052			
経常費用計	10,925,000	12,429,606	▲1,504,606			
H29年度末正味財産増減額	-184,000	-1,409,548				
H28年度繰越正味財産額	2,124,244	2,124,244				
H29年度末正味財産額	1,940,244	714,696		JOFPA基金2017年度末残高698,242円を含む。		

貸借対照表

平成30年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラールの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	1,714,696
流動資産合計	1,714,696
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,714,696
II 負債の部	
1 流動負債	
前受け金	1,000,000
流動負債合計	1,000,000
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	1,000,000
III 正味財産の部	
正味財産	
前期繰越正味財産額	2,124,244
当期正味財産増加額	-1,409,548
正味財産計	714,696
負債及び正味財産合計	1,714,696

平成 29 年 度 財 産 目 録

平成30年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラールの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	125,841
普通預金 三菱東京UFJ銀行青葉台駅前支店	114
三井住友銀行青葉台支店	11,968
ゆうちょ銀行	1,427,534
郵便振替口座	149,239
流動資産合計	1,714,696
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,714,696
II 負債の部	
1 流動負債	
助成金前受金	1,000,000
流動負債合計	1,000,000
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	1,000,000
正 味 財 産	714,696